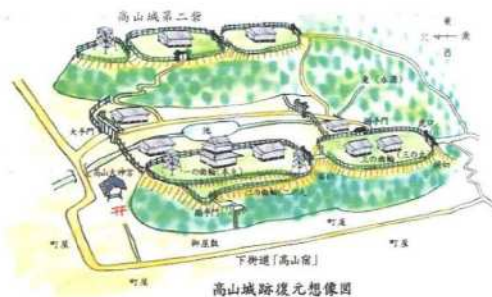


【団体名】高山城高山宿史跡保存会 【事業名】歴史文化を活かしたまちづくり事業



歴史検証会(年間に5回実施)



高山城復元予想図(歴史検証結果)



高山城跡の整備(年間に5回実施)



高山城跡の整備(年間に5回実施)



歴史講演会(9月)



座禅会(9月)



史跡めぐり 野点(9月)



史跡めぐり 野点(9月)



高山城城門の設置(8月)



慈徳院 観月会(9月)



あかりのタベ(10月)



穴弘法 もみじのライトアップ(11月)



ウオーキングルートの穴弘法



親子ふれあいウオーキング(11月)



親子ふれあいウオーキング(11月)



JRさわやかウオーキング(11月)



高山城跡に設置された東屋

下街道高山宿の歴史

織田信長がいよいよ天下統一を目前とした同年6月(1582年)、明智光秀による本能寺の变が勃発し東濃の地は再び混乱の嵐に巻き込まれました。天正11年(1583年)、高山城を死守していた平井頼母は美山の森長に開城を迫られ、その後天正13年(1585年)その生涯を閉じました。

江戸時代

慶長5年(1600年)関ヶ原の合戦の際、高山城は一時岩村城主田丸直昌の支城となりましたが、徳川家康に頼じた妻木軍に攻められ、以後妻木家の支城となりました。その後妻木家は万治2年(1659年)お家断絶となり高山は徳川幕府直轄の天領として、また中山道の下街道「高山宿」として栄えました。万治3年(1660年)に高山大神宮の跡に氏子の手で南宮神社が再建され、寛文元年(1661年)には妻木崇徳寺の塔頭を移して妙光山慈徳院が移築開創されました。

明治時代から現代へ

現代にかけて陶磁器産業が隆盛を誇るようになり明治13年に天皇陛下の御遊幸を仰ぎました。高山城跡はふもとからの標高差57mを有し、眼下に土岐市の市街地を見下ろす絶景の地です。ここに土岐市や社会福祉協議会の支援の元、地元自治会やボランティアの手で「高山城址」の石碑が建立され、「東屋」や「トイレ」の建設が行われました。



穴弘法のライトアップ

また高山城跡のすぐ下には元禄元年(1688年)頃開創された慈光院跡(現在は穴弘法と呼ばれる)があり、104体の石仏が安置され移り行く歴史を見守っています。毎年紅葉の時期には穴弘法から古城山稲荷、南宮神社にかけて地元ボランティア団体里山の会により「もみじのライトアップ」が行われ多くの市民で賑わいを見せています。

最寄りの便利スポット

グルメ	地図索引
フーマーズキッチン (洋食)	TEL 0572-55-7100 C-9
スクラッチ (洋食)	TEL 0572-54-5446 C-10
キャビン (洋食)	TEL 0572-55-0200 A-9
さかの (レストラン)	TEL 0572-55-8448 G-4
はなれ (和食・うなぎ)	TEL 0572-55-0560 C-9
松壽司 (寿司)	TEL 0572-55-4501 F-4
さむら (五平餅)	TEL 0572-55-7137 C-9
びあの (喫茶)	TEL 0572-54-7077 D-10
特摩 (喫茶)	TEL 0572-26-7868 A-9
tunagu (喫茶・雑貨)	TEL 0572-26-8279 B-10
ミレニアム (喫茶)	TEL 0572-54-0606 G-4

特産品	地図索引
陶土工房 (陶器/漆塗物)	TEL 0572-54-2120 A-9
大竹醤油醸造所 (味噌)	TEL 0572-54-2125 B-12
虎深 (和菓子)	TEL 0572-55-3047 G-4

ショッピング	地図索引
セブンイレブン (コンビニ)	TEL 0572-54-3110 F-5
ローソン (コンビニ)	TEL 0572-54-0041 F-4
タックメイト (コンビニ)	TEL 0572-55-2618 F-5
パロー (スーパー)	TEL 0572-55-8000 E-8
道の駅	TEL 0572-53-3160 下図

道の駅	地図索引
土岐美濃街道とんぶり会館	TEL 0572-59-5611 下図
志野・織部	TEL 0572-55-3017 下図

土岐高山城下街道高山宿へのアクセス

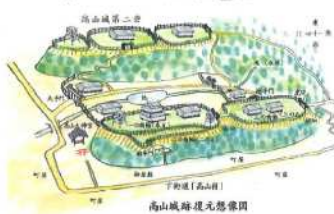
自動車	中央自動車道 土岐ICより車で5分
	東海環状自動車道 土岐南多治見ICより車で7分
電車	JR中央線 土岐市駅下車 徒歩15分



土岐津町のまちづくりをめざす
高山城高山宿史跡保存会
事務局 TEL 0572-55-0112

土岐 下街道 高山城 高山宿 ふれあい散策マップ

美濃源氏の時代から戦国時代へ
江戸時代から明治時代へ
武将たちの足跡と宿場を支えた
町人の息吹を探しに行こう!



高山城高山宿史跡保存会



高山城跡の石碑

今よみがえる土岐高山城

美濃源氏の時代

平安時代、清和源氏の流れを汲む源国房は美濃に勢力を伸ばしその孫光信は土岐郡土岐郷に進入しました。文治5年(1189年)孫の光衡は一日市場(瑞浪市)に館を構え土着した岐氏を号しました。承久3年(1221年)、光衡の子光行は浅野に館を移しましたが、その孫頼貞は美濃国の守護職に任命され大内館を構えました。高山城は美濃源氏の一族、高山伊賀守光俊が承久の乱(1221年)の頃に土岐市土岐津町高山の地に館を築いたのが始まりと考えられています。

戦国時代

弘治2年(1556年)末代の高山伊賀守光俊没後、武田信玄の命を受けた平井先行、平井頼母親子が高山へ兵を進め城主となりました。武田勢と織田勢が対峙する中で、武田側に父光行を亡き者にされた平井頼母は織田信長の支援を受け高山城を強固な要害と成し700名の兵によって武田軍の侵攻に備えました。天正2年(1574年)甲斐の武田信玄の嫡男武田勝頼は1万2千の兵をもって「美濃攻め」を行い、高山城においても激しい合戦が繰り広げられました。



遠瀬守(長野県高遠)に寄贈された高山大神宮の鐙口

天正3年(1575年)、長篠の戦いで武田勝頼を破り、さらに岩村城を奪還した織田信長は、天正10年(1582年)徳川家康と連携を取りながら総勢3万の軍勢で武田勢の討伐を開始し、長野原の高遠城での壮絶な戦いの後武田勝頼を滅ぼしました。この時平井頼母が持ち出したと言われる高山大神宮(現在の南宮神社)の鐙口が高遠の遠瀬守に寄贈され残っています。



馬除壇跡 G-4

御智輪様 (明栄寺跡) F-5

馬頭観音 H-6

石仏群 G-8

春の高山公園 G-10

聖観世音菩薩 (慈徳院) G-11

慈徳院に残る武家屋敷門 F-11

穴弘法の石仏群 D-15